

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス
共育コラム

自律の力を鍛えることで

～求められる危険察知能力、思考・判断プロセス、自己調整・抑制力～

自転車利用の場合は、ライトの点灯点検を

交通ルールの順守、交差点の飛び出し注意等、十分言い聞かせてください。今の子どもたちは、心身ともに危険を察知する力が落ちていることは、日ごろの活動の様子を見ても感じています。しかし、常におとながそばに居て声をかけられるわけではありません。ずっと温室の中で囲っておくこともできません。そうすると、ますます自ら危険を察知して回避する能力は高まりません。危険察知能力、回避能力を高めるには、育つ過程において、大事に至らない程度の多少の危険な体験、痛い思いをすることも必要でしょう。子どもの育ちを見守り、見届けるのに、心配はつきませんが、大事にだけは至らないよう、みんなで注意を促していきましょう。

活動（練習）中、プレー中にも必要な危険察知能力

日ごろの活動の様子を見ていると、危険を察知する力の必要性を感じることは、よくあります。限られたフロアで30人近い子どもたちがボールを使って活動します。規則性もなく勝手にしたいようにしていたら、ぶつかり合ったりすることは、当然起きます。

今そこで、そんな練習（プレー）をすれば、ぶつかるだろうとか、ゲーム中に周りのゴールを使ってシュート練習をすれば、ボールがはねてコート内に入ることがあるだろうとか、おとなの感覚では、容易に察知できることですが、経験の乏しい子どもたちには、それも容易ではありません。

何度も失敗を重ねてきている子を見ていると、

- ・ そのときどきに、いったん考えること、判断することのプロセスをとばしてしまって、やりたいからやる、という自分の欲求のままに行動してしまう子。
- ・ ほかの人もしてるからいいだろう、と自分で考えて判断するというプロセスをもち、まわりの人や状況に流されて行動してしまう子。
- ・ 一定考えてはいても、これくらい大したことにはならないだろう、と思って行動してしまう子。

このような状況が、学年に関係なく見えてしまうのが、今の子どもたちの育ちの課題です。低学年から高学年、つまり発達段階に沿って思考力、判断力、自己調整力・抑制力などが高まり、物事の分別が付き、ルールやマナーに基づいた行動がとれるようになりますが、このプロセスが崩れているケースがみられるのが大きな課題です。

先進諸外国では規制が広がり始めているが、日本は…

今、社会的に問題になっている、インターネット、SNS等を悪用したさまざまな社会犯罪をみても、これからの子育て、教育のありようは、ますます重要です。子どもたち(小・中学生)がスマホを所持し自由に使える状況については、前にもお伝えした通り、世界的にも大きな問題になっています。

先日、オーストラリアで、子どものSNS利用に関する法規制への動きが発表されました。以前にもお伝えしている通り、すでに、フランスやイギリスなどヨーロッパ諸国、アメリカの一部の州では規制がかかっています。デジタル画面を長時間視聴することによる脳の発達への影響が医学界からも問題提起がなされるなか、この動きは、世界各国に広がっていると報道されています。海外では、法律で子どもを守る動きが始まっています。

日本の青少年の利用状況は右の通りです。現在、法的規制をせず、個人や保護者の判断にゆだねられているのが日本です。社会状況の変化に法整備が追いついていません。

「危険察知能力」「思考・判断のプロセス」「自己調整・抑制力」、が、子どもに求めています。しかし、かかわるおとなが、気にかけて育てていかなければならない力です。子どもだから失敗はつきものですが、「やりたいから…」「ほかの人もしてるから…」「大したことにはならないだろう…」が、とりかえしのつかない大きな失敗にならないよう、気をつけていかなければなりません。

▼「自分専用スマホ」を所有

小学生(10歳以上) 70.4%

中学生 93.0%

高校生 99.3%

▼1日3時間以上インターネット使用

小学生(10歳以上) 57.3%

中学生 71.8%

高校生 81.4%

【令和5年青少年のインターネット利用環境実態調査(こども家庭庁より)】

